

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
108	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Associations between alcohol consumption and sleep-disordered breathing among Japanese women. 日本人女性でのアルコール摂取と睡眠呼吸障害との関連性	
執筆者	
Cui R, Tanigawa T, Sakurai S, Yamagishi K, Muraki I, Imano H, Ohira T, Kiyama M, Kitamura A, Ishikawa Y, Iso H; CIRCS Investigators.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Respir Med. 105(5):796-800 (2011)	
キーワード	
アルコール、睡眠呼吸障害、日本人女性	
要旨	
背景： 女性でのアルコール摂取と睡眠呼吸障害との関連性は明らかとなっていない。	
方法： 3,113名の女性(年齢30-69歳)を対象に、アルコール摂取と睡眠呼吸障害との関連性について横断的疫学研究を行った。睡眠呼吸障害の指標として終夜脈拍酸素濃度測定を基にした3%酸素飽和度低下指数(ODI: oxygen desaturation index)を用いた。	
結果： 3%ODIが1時間当たり5回以上の頻度で見られる睡眠呼吸障害は、非飲酒者と比較して、エタノールを23.0g/日以上摂取している飲酒女性で多く認められた(多変量オッズ比、1.8)。常習性のいびきに対応するオッズ比は3.0であった。23.0g/日以上のエタノール摂取と3%ODI頻度が5以上の睡眠呼吸障害との関連性は、肥満度(BMI)が高い女性よりもBMIが23.0kg/m <sup>2</sup> 以下の女性での場合の方が顕著であった(肥満度の高い女性でのオッズ比は1.5で、肥満度の低い女性でのオッズ比は2.7)。いびきに対するオッズ比では、肥満度での違いは認められなかった。	
結論： 日本人女性で、エタノール摂取は睡眠呼吸障害発症の危険因子になっている。	